

令和 6 年度 国際交流センター事業報告

令和 7 年 4 月 22 日
国際交流推進委員会 報告

NEXT30 におけるミッションの一つである国際化の方針「スポーツや武道を通じた国際交流を図り、それらの学術的・文化的価値を世界に発信ができる人材」に示された基礎力の育成を目的として、国際交流センターでは、「スポーツ・異文化理解・語学」の 3 分野を連動させた取り組みを通じ、本学のグローバル化を推進している。このセンターのビジョンに基づき、令和 6 年度に実施した下記の事業について報告する。

1. 事業報告

① 英語カリキュラムに基づく英語の授業及び「異文化理解」の授業の継続と評価

令和 5 年度末のアチーブメントテスト、令和 6 年度初頭のプレイスメントテスト及び令和 6 年度末のアチーブメントテストの結果を評価した。現行カリキュラムでの授業内容等に問題はないと評価できたが、受講生がよりスムーズに英語科目を履修できるようにするため、授業科目のレベル及び種類の一部をマイナーチェンジすることを決め、一部は令和 6 年度より、他は教務委員会で審議了承されたため、令和 7 年度の授業より実施することとした。

また、「異文化理解」の授業をセンター教員によるオムニバス形式で実施した。

② マンツーマン英語指導

海外の武道やスポーツの実践者との交流や海外短期研修参加を希望する学生、英語力を伸ばしたい学生を対象に、異文化理解を含めた英語コミュニケーション力向上のための勉強会を、国際交流センターの教員がマンツーマンで実施し、週あたり約 10 名が参加した。

③ T.E.A.M. (Teaching English for Athletic Minds)

令和 6 年度から、学生・教職員を対象に、参加者の多様な要望に即した 1 セッション 15 分のレッスンを開始した。

④ 留学フェア

7 月、海外留学や語学学習に関心を持つ学生を対象とした「留学フェア」を実施し、講師として、在学中に体操部に所属し、オーストラリアへ留学経験のある卒業生 1 名を招聘した。事後アンケートでは、参加者全員が「留学フェアが役立った」と評価した。また、終了後は交流会を実施し、参加者同士の情報交換を促進した。

⑤ 留学生と日本人の交流イベント

留学生と日本人学生とのスポーツ・武道を通じた交流イベントの代替イベントとして、令和 7 年 1 月、鹿児島県アジア・太平洋農村研修センターの依頼により、台湾の逢甲(ほうこう)大学で日本語を学ぶ学生(20 名)の受入れを行った。本学からは、日本人学生、留学生併せて 7 名の学生と 5 名の教職員が参加した。

⑥ 英語プレイスメントテスト、アチーブメントテスト、TOEIC IP の実施

下記を実施した。

- ・ 新入生対象のプレイスメントテスト(令和 6 年 4 月 1 日)
- ・ 8 単位履修修了者対象のアチーブメントテスト(令和 6 年 1 月 15 日～2 月 12 日 計 44 名)
- ・ SS・推薦入試入学者対象のプレイスメントテスト(令和 6 年 3 月 10 日～24 日 計 77 名)
- ・ TOEIC IP テスト (5 月 11 日、6 月 29 日、8 月 31 日、11 月 9 日、2025 年 2 月 1 日 計 5 回)

⑦ 海外短期研修プログラム策定のためのカナダ視察

令和 5 年度に実施した学生の海外留学に対するニーズ調査を踏まえ、新たな短期研修プログラムやインターンの企画・立案に向け、令和 6 年 3 月 6 日～20 日、国際交流センター教員 2 名がカナダブリティッシュコロンビア州バンクーバー及びバンクーバーアイランドのコモックスを視察し、コモックスでの短期研修プログラムを策定したが、研修費用が想定以上に高額となったため実施困難と判断し、令和 6 年度の学生募集には至らなかった。

⑧ 交流協定校との交流事業

令和 6 年度は通年で 3 名の交換留学生を受け入れた。このうち天津体育学院からは、学生交流協定締結後、初めてとなる 1 名を受け入れた。

5 月には上海体育大学の副学長をはじめとする 5 名が来訪し、今後の交流に関する協議を実施した。これにあたり、実務面で国際交流係と連携して対応した。

⑨ 公開講座

地域の英語教育の質を向上させるための公開講座「Thoughtful Talks: Sharing Ideas on Familiar Topics in English～脳内に話題のフォルダーを作ろう！～」を、オンラインで 5 月 15 日～6 月 12 日まで計 5 回実施した。

⑩ LECS:Lunchtime English Conversation Seminar

教員向けのランチタイム英会話セッション(LECS:Lunchtime English Conversation Seminar)を企画し、5月7日～7月23日まで計8回実施した(エルメス准教授)。

⑪ JICA 海外協力隊連携派遣の3カ年の覚書締結と初年度実施

⑦に関連し、予算確保の課題を解決するため、国際交流センター長と重点プロジェクト雇用特任職員を中心に外部機関の制度を調査し、JICA 海外協力隊連携派遣の採択を目指す方針を決定し、本学 OB(JICA 職員・講道館職員等)のネットワークを活用し柔道部と協議を重ね、令和6年5月に応募した。短期派遣を主軸とした計画が6月に仮採択され、9月に正式採択された。令和7年1月、本学と JICA の間で連携派遣覚書を締結し、2月中旬から3月中旬にかけて、柔道部学生2名と学外関係者1名をペルーに派遣した。

⑫ その他

NIFS NEXT30 のミッションに関連し、他センター及び他部署における国際交流事業を支援した。また、5月に執り行った英国剣道協会パートナーシップ調印式に関しては、国際交流係と連携し実務面での支援を行った。

2. 予算執行額

①国際交流センター経費

区分	金額	算出内訳
人件費	186,086 円	学生アルバイト雇用(交流プログラム補助等)、講師等旅費交通費、講師謝金(セミナー等)
物件費	49,002 円	英語テスト、JICA 海外協力隊連携派遣用スペイン語テキスト
旅費	1,213,389 円	カナダ視察に係る出張旅費一部、JICA 海外協力隊連携派遣に係る引率者旅費
その他	763,695 円	講義室物品、ChatGPT Plus サブスクリプション
計	2,212,172 円	

②重点プロジェクト事業経費：スポーツや武道の学術的・文化的価値を発信する人材の基礎力養成(配分額:2,076,000 円)

区分	金額	算出内訳
人件費	1,930,898 円	